

【教育目標】 あたたく たくましい心と体を持ち 互いに学び合う児童の育成 ～よく学び よく遊び～

【合言葉】 共に創る未来～あた互の子、愛宕小の未来を創る～

【めざす児童像】 ○あたたかい心をもつ優しい子 ○たくましく生きる元気な子 ○互いに学び合う賢い子

【めざす職員像】 ○子供と共に学び、共に汗を流す教職員（本校の強み） ○人間性が豊かで信頼される教職員（誠実） ○常に課題意識を持ち、学び続ける教職員（研修） ○心身ともに健康で協力し合う教職員（働き方改革）

【めざす学校像】 ○子供が行きたい楽しい学校 ○保護者が安心して通わせたい学校 ○地域が応援したい自慢したい学校 ○職員の意欲があふれる働きがいのある学校

【学力調査の結果】

※3・4年生は市の平均、5・6年生は県の平均と比較し、5ポイント以上の差について、有意差(高い・低い)があると判断

3年		4年		5年		6年	
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
高い	高い	やや高い	高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い

【確かな学力におけるめざす児童の姿】

「分かってほしい」「できるようになりたい」という思いを持ち、積極的に聞いたり自分の考えを伝えたりし、すすんで学びに向かう児童

【本校児童の課題】

- 聞く・話すことが苦手である。
- 読解力に課題があり、文章を読み取ることができない。
- 家庭学習の習慣が定着していない児童がいる。
- 個別に支援を要する児童が大変多い。

【子供の伸ばすための視点】 ※数値化（赤）

視点	具体的な取組	視点	具体的な取組
1 授業改善	一人も取り残さず、すべての児童が学習の主体者となる授業改善をめざす校内研修 主題：「児童一人ひとりが学習の主体者になる授業改善をめざして」 ～問題解決学習における学び合いを通して～ 【視点1】協同を必要とする問題についての研究（愛合課題） 【視点2】問題解決学習における学び合いの効果的な位置づけと形態の選択（聴き合い） 【視点3】学んだことを自分の中に再構築するための「振り返り」の研究 研究の柱： ①「聴き合う関係」づくり ②「愛合課題」の設定の工夫 ③振り返りの充実 ○全体授業・部会授業における 全員授業 ○わかる喜びが実感できる授業（児童による学校評価89%→93%）	4 基礎基本の徹底	○読書の充実を図る→図書室の活用、学校司書との連携 →年間低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊を目標とする。 ○デジタマ・キュビナの活用（週1回以上） ○愛（I）チャレンジの実施（週1回）
		5 特別支援教育の視点	○i-checkの活用による児童の実態把握と支援 ○交流学級担任と特別支援学級担任との連携の強化（1日1回児童の情報交換） ○幼稚園・保育園・中学校との連携、スクールカウンセラーなどの関係機関との連携の強化 ○個別の支援計画と指導計画の作成 ○コグトレの実施（週1回）
2 学習規律の徹底	○学習規律における掲示物（ハンドサインによる発表の仕方・振り返り（わがとも）） ○学習用具のチェック表（学期ごとのチェックで3月までに95%そろえるようにする。） ○愛宕スタンダード（学習規律）の徹底（学び方の基礎・基本） ○ノートの書き方をそろえる。	6 地域・家庭との連携	○保護者との情報共有の充実 ○家庭と連携した「基本的な生活」の定着（メディアコントロール・あはは運動） ○家庭学習の手引き作成・配布（保護者による学校評価79%→85%） ○家庭、地域と連携→大人総がかりでの児童の健全育成（パワーアップ教室・にこにこ教室）
3 学級経営	○日常的な「いのちの教育」、実践の積み重ねによる互いに認め合うことができる「支持的風土がある学級づくり」（道徳科の充実と道徳的実践力の育成） ○児童に自尊感情・自己肯定感や達成感を味わわせる取組と賞賛 ○心の天気アンケート実施。必要な児童に対しての個人面談（月1回）	7 生活指導	○5つのあ「あいさつ・あそび・あるきかた・ありがとう・あとかたづけ」の指導の継続・徹底（毎月の生活の目標設定） ○あはは運動の浸透

※各学年の学力向上における課題、取組は別紙